

平成31年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年8月7日

上場会社名 アクシアル リテイリング株式会社
 コード番号 8255 URL <http://www.axial-r.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 原 和彦

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員 (氏名) 山岸 豊後

TEL 0258-66-6711

四半期報告書提出予定日 平成30年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	57,079	1.2	2,037	2.3	2,091	1.4	1,385	3.7
30年3月期第1四半期	56,381	1.4	2,085	7.8	2,119	8.7	1,438	8.9

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 1,594百万円 (5.4%) 30年3月期第1四半期 1,685百万円 (9.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	59.37	
30年3月期第1四半期	61.62	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
31年3月期第1四半期	101,119	54,912	54.3	2,352.46
30年3月期	99,710	54,485	54.6	2,334.17

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 54,912百万円 30年3月期 54,485百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		20.00		50.00	70.00
31年3月期					
31年3月期(予想)		20.00		50.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	116,000	0.2	4,200	3.8	4,200	5.1	2,800	3.5	119.95
通期	233,000	0.1	9,100	0.4	9,200	0.1	6,000	1.2	257.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	23,388,039 株	30年3月期	23,388,039 株
期末自己株式数	31年3月期1Q	45,556 株	30年3月期	45,481 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	23,342,515 株	30年3月期1Q	23,342,651 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の情報に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、この四半期決算短信【添付資料】5ページ「1 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

【添付資料】

目 次

	頁
1 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(四半期連結損益計算書)	9
(四半期連結包括利益計算書)	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する事項)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計処理の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(追加情報)	12
(セグメント情報)	13
3 補足情報	15
(1) 生産、受注及び販売の状況	15

文中における将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

なお、将来に関する事項につきましては、不確実性を有しており、将来生じる結果と異なる可能性がありますので、記載しております事項に対する判断は、以下記載事項及び本項目以外の記載内容も合わせて慎重に行われる必要があります。

当社グループは、スーパーマーケットの経営を事業主体としており、店舗「原信」「ナルス」「フレッセイ」を各地に出店しております。

1 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、有効求人倍率が高止まりを続けるなど、緩やかな拡大を続けている一方、個人の消費支出が低調に推移し、人口動態や消費構造の変化の影響を受けているものと思われま

す。このような状況において、当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結経営成績は、売上高が570億79百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益が20億37百万円（前年同期比2.3%減）、経常利益が20億91百万円（前年同期比1.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益が13億85百万円（前年同期比3.7%減）となりました。また、1株当たり四半期純利益は59円37銭となりました。

売上高につきましては、堅調に推移し増収となりました。なお、事業の中心であるスーパーマーケット事業において、最大店舗に約8億円を投じ増築を伴う大規模改装を実施いたしました。休業中の売上減少影響はあったものの、改装後は予定を上回る実績を上げております。一方、改装諸経費1億12百万円並びに固定資産の除却損24百万円が生じたことにより、各利益は前年同期を下回りました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。なお、各セグメントの業績値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示しております。

① スーパーマーケット

(全般)

当社グループでは、本年度の方針を「変革への挑戦」と定め、変化を続ける社会において、必要とされる存在であり続けるための様々な施策と、それを実現するための強固な企業構造の構築を進めております。

販売指標に関する動向は、次のとおりであります。

<客単価、買上点数、一品単価>

当社グループならではの魅力ある商品のご提供、お客様に伝わるご案内方法の工夫等が功を奏し、既存店の買上点数は前年同期に比べ0.5%増加し、既存店の一品単価は前年同期に比べ1.2%増加いたしました。

この結果、既存店の客単価は前年同期に比べ1.7%増加いたしました。

<来店客数>

当社グループが店舗を展開する地域の天候状況は、期間を通じ安定的であったものの、競合する同業種・異業種の影響や当社グループの中では最大規模店舗の改装による長期休業影響で、来店客数は既存店で前年同期に比べ1.5%減少し、全店でも前年同期に比べ0.2%減少いたしました。

<売上総利益率>

近年新設したフレッセイ前橋物流センターの運営が軌道に乗ったことに加え、ロジスティクス全体のレベルアップによる品切れ削減、店舗在庫の適正化の取り組みや値下げ廃棄の削減により、商品販売における売上総利益率は、前年同期に比べ0.4ポイント増加し25.8%となりました。

(プライベート・ブランド商品)

当社グループの規模と販売力が成しえるプライベート・ブランド商品の企画・開発は、他社との差別化を図る上で、大きな強みとなっております。

4月には、レトルトカレーを新発売いたしました。この商品は、専門店の味づくりを追求し、本格的なスパイスの風味と味わい深いコクを兼ね備えた商品であり、大変ご好評を得ることができました。

(出店・退店等)

出店につきましては、該当ありません。

改装につきましては、原信河渡店（4月、新潟県新潟市、売場面積3,038㎡）について実施いたしました。

退店につきましては、該当ありません。

(セントラルマーケット)

「豊かさ」、「楽しさ」、「便利さ」。当社グループは、これらのご提供を行うことで、お客様の暮らしぶり向上に役立てることをスーパーマーケットの使命と考えております。

このような考えのもと、お客様からより高いご支持をいただける店舗フォーマットの開発を進めており、平成27年10月から、比較的大型の店舗で提案型売場を飛躍的に進化させた店舗フォーマット「セントラルマーケット」を原信川崎店の改装を機に始めました。

4月には、セントラルマーケットの2号店として、原信河渡店について、売場面積を約1.5倍に拡張する改装を実施しました。お買い物の楽しさや豊かな食生活を実現するため、食を通じた健康提案や、「365サイドディッシュ」コーナーを新設し、店内カットのナチュラルチーズ、ドライフルーツ&ナッツ、ピクルス、ローストビーフなど、従来にはない多彩な品揃えに取り組んでいます。この結果、改装後は当初の想定を大幅に上回るお客様からのご支持を頂戴しております。

(業績)

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるスーパーマーケット事業の売上高は569億20百万円（前年同期比1.5%増）、営業利益は18億83百万円（前年同期比3.1%減）となりました。

なお、当第1四半期連結累計期間の営業状況は、次のとおりであります。

項目		当第1四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)	前年同期比
店舗数	グループ合計	129店舗	1店舗増加
	内訳 (原信)	64店舗	1店舗増加
	(ナルス)	14店舗	増減なし
	(フレッセイ)	51店舗	増減なし
店舗売上高	全店	53,885百万円	101.6%
	既存店	52,742百万円	100.1%
来店客数	全店	2,707万人	99.8%
	既存店	2,646万人	98.5%
客単価	全店	1,990円	101.7%
	既存店	1,993円	101.7%
買上点数	全店	11.0点	100.6%
	既存店	11.0点	100.5%
一品単価	全店	180円	101.2%
	既存店	180円	101.2%

- (注) 1 店舗数は、当連結会計年度末現在におけるスーパーマーケットの設置店舗数であり、他業態の設置店舗数（当第1四半期連結会計期間末現在 100円ショップ5店舗）は含みません。
- 2 店舗売上高、来店客数、客単価、買上点数、一品単価は、スーパーマーケット店舗のみの数値であります。
- 3 客単価は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった金額の平均であります。
- 4 買上点数は、お客様一人当たりが一回のご来店でお買い上げになった商品数の平均であります。
- 5 一品単価は、お客様がお買い上げになった商品の一品当たり金額の平均であります。
- 6 店舗売上高、客単価及び一品単価に消費税等は含まれておりません。
- 7 既存店は、店舗開設より満13か月以上を経過した店舗であります。

② その他

(清掃事業)

スーパーマーケット事業向け並びに外部顧客向けの販売は、いずれも増加いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ7.0%増加し、営業利益は前年同期に比べ3.8%増加いたしました。

(情報処理事業)

スーパーマーケット事業向けの販売は、情報機器の需要減で減少いたしました。また、外部顧客向けの販売は、受注案件を順調に確保し増加いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ7.1%減少いたしました。営業利益は前年同期に比べ15.7%増加いたしました。

(印刷事業)

スーパーマーケット事業向けの販売は、チラシ、販促資材の受注の増加により増加いたしました。一方、外部顧客向けの販売は、若干減少いたしました。この結果、売上高は前年同期に比べ0.2%増加し、営業利益は前年同期に比べ5.5%増加いたしました。

(前連結会計年度の連結範囲の変更影響)

平成29年4月に実施した運輸事業の取りやめ、並びに、平成29年9月に実施した自動車販売事業の事業譲渡の影響で、前年同期比では売上高、営業利益の減少影響が生じております。

(業績)

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は11億41百万円(前年同期比20.4%減)、営業利益は1億48百万円(前年同期比7.9%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態

当第1四半期連結会計期間末における連結財政状態は、総資産が前連結会計年度末に比べ14億8百万円増加し1,011億19百万円、総負債が前連結会計年度末に比べ9億81百万円増加し462億7百万円、純資産が前連結会計年度末に比べ4億26百万円増加し549億12百万円となりました。また、1株当たり純資産額は2,352円46銭となりました。

当第1四半期連結会計期間末における各項目別の内容を示すと、次のとおりであります。なお、「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前連結会計年度末対比の数値は、当該会計基準等を遡って適用した後の数値に基づき記載しております。

(総資産)

流動資産は236億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億20百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が増加したことによるものであります。なお、流動資産の構成比は前連結会計年度末に比べ0.1ポイント減少し23.3%となりました。

固定資産は775億17百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億87百万円増加いたしました。その内容は次のとおりであり、固定資産の構成比は前連結会計年度末に比べ0.1ポイント増加し76.7%となりました。

有形固定資産は596億80百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億86百万円増加いたしました。これは主に、既存店舗の改装及び建設中の食品加工センターに係る設備投資によるものであります。

無形固定資産は21億44百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億44百万円増加いたしました。これは主に、借地権の増加によるものであります。

投資その他の資産は156億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億55百万円増加いたしました。これは主に、保有する投資有価証券の時価総額が増加したことによるものであります。

(総負債)

流動負債は321億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ13億1百万円増加いたしました。これは主に、短期有利子負債の増加によるものであります。なお、流動負債の構成比は前連結会計年度末に比べ0.8ポイント増加し31.8%となりました。

固定負債は140億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億19百万円減少いたしました。これは主に、長期有利子負債の減少によるものであります。なお、固定負債の構成比は前連結会計年度末に比べ0.5ポイント減少し13.9%となりました。

(純資産)

株主資本は528億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億18百万円増加いたしました。これは主に、剰余金の配当11億67百万円を行った反面、親会社株主に帰属する四半期純利益13億85百万円を計上したことによるものであります。

その他の包括利益累計額は20億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億8百万円増加いたしました。これは主に、保有する投資有価証券の時価総額が増加したことによるものであります。

なお、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.3ポイント減少し54.3%となりました。

② キャッシュ・フロー

当第1四半期連結会計期間末における連結キャッシュ・フローは、現金及び現金同等物（以下、「資金」といいます。）が前連結会計年度末に比べ5億70百万円増加し127億6百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フロー別の状況を示すと、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は31億17百万円となり、前年同期に比べ1億89百万円増加（前年同期比6.5%増）いたしました。これは主に、曜日回りの関係による営業債務の決済日ずれによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は31億69百万円となり、前年同期に比べ19億76百万円増加（前年同期比165.7%増）いたしました。これは主に、既存店舗の改装及び建設中の食品加工センターに係る設備投資によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は6億22百万円（前年同期は、使用した資金が24億59百万円）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額が22億円となったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

【第2四半期連結累計期間】

売上高1,160億円（前年同期比0.2%増）、営業利益42億円（前年同期比3.8%減）、経常利益42億円（前年同期比5.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益28億円（前年同期比3.5%減）を見込んでおります。

【通期】

売上高2,330億円（前年同期比0.1%増）、営業利益91億円（前年同期比0.4%増）、経常利益92億円（前年同期比0.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益60億円（前年同期比1.2%減）を見込んでおります。

【上記予想の前提条件】

売上高につきましては、主たる事業であるスーパーマーケット事業において、競合状況の変化等に加え、当社グループ内では大型上位2店舗の改装による休業影響を踏まえ、既存店売上高は通期で前年同期比0.7%の減少を見込んでおります。一方、全店売上高では新規出店店舗の増収効果を踏まえ前年同期比0.3%の増加を見込んでおります。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、大型2店舗の改装休業による減収並びに改装経費の影響に加え、新設する食品集中加工センターの開設経費が発生するため、営業利益が前年同期並み、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、前年同期に比べ若干の減少を見込んでおります。

【業績予想に対する第1四半期の実績の進捗状況等について】

第1四半期累計期間の実績値は、当初の想定に概ね沿ったものであり、現時点で業績予想の修正はありません。

なお、第2四半期累計期間の業績予想に対する第1四半期累計期間の実績の進捗状況は以下のとおりであります。

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
第2四半期予想 (A)	116,000	4,200	4,200	2,800	119.95
第1四半期実績 (B)	57,079	2,037	2,091	1,385	59.37
進捗率 (%) (B)/(A)	49.2	48.5	49.8	49.5	49.5

【注意事項】

この四半期決算短信に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は既知及び未知のリスク、不確実性及びその他様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、当社グループが認識している事業等のリスクにつきましては、当社の有価証券報告書をご参照ください。

2 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,137	12,708
受取手形及び売掛金	1,403	1,316
リース投資資産	1,062	1,029
商品及び製品	4,838	4,961
仕掛品	29	50
原材料及び貯蔵品	280	302
未収還付法人税等	312	479
その他	3,326	2,762
貸倒引当金	△8	△9
流動資産合計	23,381	23,602
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	29,840	30,445
機械装置及び運搬具（純額）	622	607
土地	20,822	20,822
リース資産（純額）	2,496	2,425
建設仮勘定	2,256	2,678
その他（純額）	2,754	2,702
有形固定資産合計	58,793	59,680
無形固定資産		
のれん	0	0
その他	1,999	2,144
無形固定資産合計	1,999	2,144
投資その他の資産		
投資有価証券	3,875	4,183
長期貸付金	21	22
繰延税金資産	3,042	3,080
敷金及び保証金	7,539	7,423
その他	1,105	1,029
貸倒引当金	△48	△48
投資その他の資産合計	15,536	15,691
固定資産合計	76,329	77,517
資産合計	99,710	101,119

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	15,218	15,803
短期借入金	1,600	3,800
1年内返済予定の長期借入金	1,305	1,243
リース債務	428	413
未払法人税等	1,846	886
ポイント引当金	88	91
役員賞与引当金	431	115
賞与引当金	1,876	2,414
その他	8,082	7,410
流動負債合計	30,877	32,178
固定負債		
長期借入金	434	156
リース債務	3,115	3,019
資産除去債務	5,091	5,136
長期預り保証金	5,193	5,211
役員退職慰労引当金	38	37
退職給付に係る負債	254	251
その他	219	215
固定負債合計	14,348	14,028
負債合計	45,225	46,207
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,159	3,159
資本剰余金	15,749	15,749
利益剰余金	33,787	34,006
自己株式	△59	△59
株主資本合計	52,637	52,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,745	1,959
退職給付に係る調整累計額	101	96
その他の包括利益累計額合計	1,847	2,056
純資産合計	54,485	54,912
負債純資産合計	99,710	101,119

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	56,381	57,079
売上原価	40,687	40,879
売上総利益	15,693	16,200
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	82	91
従業員給料	2,161	2,194
雑給	3,743	3,915
役員賞与引当金繰入額	122	115
賞与引当金繰入額	803	821
役員退職慰労引当金繰入額	1	1
退職給付費用	167	202
地代家賃	1,277	1,300
減価償却費	906	975
のれん償却額	2	0
貸倒引当金繰入額	0	0
その他	4,339	4,544
販売費及び一般管理費合計	13,608	14,162
営業利益	2,085	2,037
営業外収益		
受取利息	15	14
受取配当金	28	34
受取保険金	1	20
その他	11	9
営業外収益合計	57	78
営業外費用		
支払利息	22	19
その他	0	4
営業外費用合計	23	24
経常利益	2,119	2,091
特別利益		
固定資産売却益	1	—
特別利益合計	1	—
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	2	35
減損損失	0	1
特別損失合計	3	37
税金等調整前四半期純利益	2,118	2,054
法人税、住民税及び事業税	739	798
法人税等調整額	△59	△130
法人税等合計	679	668
四半期純利益	1,438	1,385
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,438	1,385

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益	1,438	1,385
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	250	213
退職給付に係る調整額	△3	△5
その他の包括利益合計	247	208
四半期包括利益	1,685	1,594
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,685	1,594
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,118	2,054
減価償却費	967	1,036
減損損失	0	1
のれん償却額	2	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	0
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	2	2
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△220	△316
賞与引当金の増減額 (△は減少)	471	537
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△3	△1
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△50	△10
受取利息及び受取配当金	△44	△48
支払利息	22	19
固定資産売却損益 (△は益)	△1	0
固定資産除却損	2	35
売上債権の増減額 (△は増加)	121	86
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△215	△166
仕入債務の増減額 (△は減少)	135	585
未払又は未収消費税等の増減額	296	10
リース投資資産の増減額 (△は増加)	44	32
その他	668	1,042
小計	4,317	4,902
利息及び配当金の受取額	29	35
利息の支払額	△19	△16
法人税等の支払額	△1,400	△1,803
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,927	3,117
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△1,318	△3,091
有形固定資産の売却による収入	54	0
無形固定資産の取得による支出	△69	△205
貸付けによる支出	△2	△3
貸付金の回収による収入	4	2
その他	139	128
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,192	△3,169
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△500	2,200
長期借入金の返済による支出	△757	△339
リース債務の返済による支出	△118	△111
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△1,083	△1,125
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,459	622
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△725	570
現金及び現金同等物の期首残高	10,364	12,135
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,639	12,706

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する事項)

当第1四半期連結会計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(会計処理の変更)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結累計期間(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)

「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」等

「「税効果会計に係る会計基準」の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	56,018	56,018	363	56,381
セグメント間の内部売上高又は振替高	41	41	1,070	1,112
合計	56,060	56,060	1,433	57,494
セグメント利益	1,943	1,943	161	2,104

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業、運輸事業、自動車販売事業等を含んでおります。なお、運輸事業については、平成29年4月をもって、当社グループとしての事業運営を取りやめました。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

	報告セグメント		その他 (百万円)	合計 (百万円)
	スーパー マーケット (百万円)	計 (百万円)		
売上高				
外部顧客に対する売上高	56,881	56,881	198	57,079
セグメント間の内部売上高又は振替高	38	38	943	982
合計	56,920	56,920	1,141	58,062
セグメント利益	1,883	1,883	148	2,032

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報処理事業、清掃事業、印刷事業等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
報告セグメント合計	1,943百万円	1,883百万円
「その他」の区分の利益	161百万円	148百万円
セグメント間取引消去	4百万円	10百万円
全社費用	△217百万円	△206百万円
その他の調整額	194百万円	201百万円
四半期連結損益計算書の営業利益	2,085百万円	2,037百万円

(注) 1 セグメント間取引消去は、主にセグメント間の固定資産売買によって生じた未実現利益に係る調整であります。

2 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に係るものであります。

3 その他調整額は、主に報告セグメントに帰属しない全社(持株会社である当社)に対する経営指導料支払額の消去であります。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

前第1四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）
該当事項はありません。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

前第1四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日）
重要な影響を及ぼすものではありません。

当第1四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日）
重要な影響を及ぼすものではありません。

3 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 販売実績

(単位 百万円、%)

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)		前年同期比			
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	7,909	13.8	7,932	13.7	23	100.3
		精肉	6,313	11.0	6,389	11.0	75	101.2
		水産	5,438	9.5	5,475	9.4	37	100.7
		惣菜	5,264	9.1	5,371	9.3	107	102.0
	計	24,925	43.4	25,169	43.4	243	101.0	
	加工食品	デイリー	10,994	19.1	11,306	19.5	312	102.8
		加工食品	14,570	25.3	14,812	25.5	242	101.7
		インスタアベーカー	838	1.5	901	1.5	62	107.5
	計	26,403	45.9	27,020	46.5	617	102.3	
	その他	住居	1,820	3.2	1,805	3.1	△15	99.1
衣料品		32	0.0	30	0.0	△2	93.8	
その他		61	0.1	49	0.1	△11	81.0	
営業収入		2,774	4.8	2,805	4.8	31	101.1	
セグメント間の内部売上高又は振替高		41	0.1	38	0.1	△3	92.2	
小計	56,060	97.5	56,920	98.0	859	101.5		
その他	外部顧客に対する売上高	363	0.6	198	0.4	△164	54.6	
	セグメント間の内部売上高又は振替高	1,070	1.9	943	1.6	△127	88.1	
小計	1,433	2.5	1,141	2.0	△291	79.6		
合計	57,494	100.0	58,062	100.0	567	101.0		

② 仕入実績

(単位 百万円、%)

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)		前年同期比			
	仕入高	構成比	仕入高	構成比	金額	比率		
スーパーマーケット	生鮮食品	青果	6,243	15.3	6,184	15.0	△59	99.0
		精肉	4,723	11.5	4,722	11.5	△0	100.0
		水産	3,967	9.7	3,975	9.7	7	100.2
		惣菜	3,163	7.7	3,212	7.8	48	101.5
	計	18,098	44.2	18,094	44.0	△4	100.0	
	加工食品	デイリー	8,242	20.1	8,433	20.5	190	102.3
		加工食品	11,630	28.4	11,802	28.7	171	101.5
		インスタアベーカー	378	0.9	420	1.0	42	111.3
	計	20,251	49.4	20,655	50.2	404	102.0	
	その他	住居	1,446	3.5	1,421	3.5	△25	98.2
衣料品		19	0.1	18	0.1	△0	96.1	
その他		60	0.1	52	0.1	△8	86.4	
リース原価		44	0.1	32	0.1	△12	71.9	
セグメント間の内部仕入高又は振替高		45	0.1	45	0.1	△0	99.9	
小計	39,967	97.5	40,320	98.1	353	100.9		
その他	外部取引先からの仕入高	912	2.2	727	1.8	△184	79.8	
	セグメント間の内部仕入高又は振替高	110	0.3	64	0.1	△46	58.2	
小計	1,022	2.5	791	1.9	△230	77.4		
合計	40,989	100.0	41,111	100.0	122	100.3		

(注) セグメント間の内部取引高を含めて表示しており、消費税等は含まれておりません。